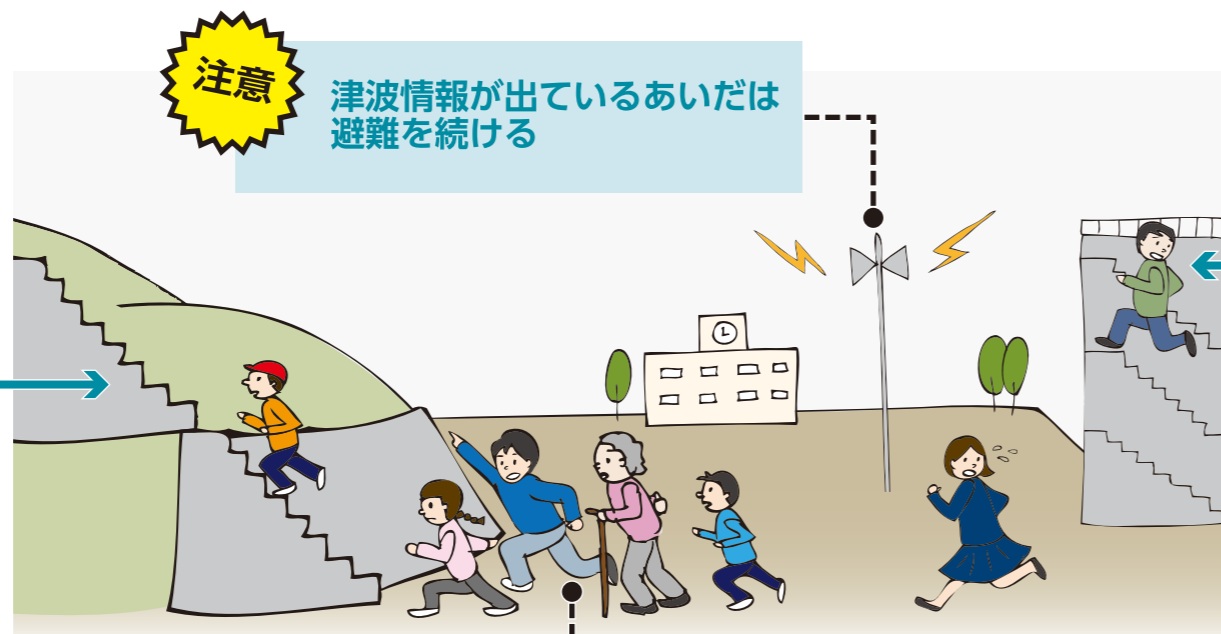


原則 / 早めの避難

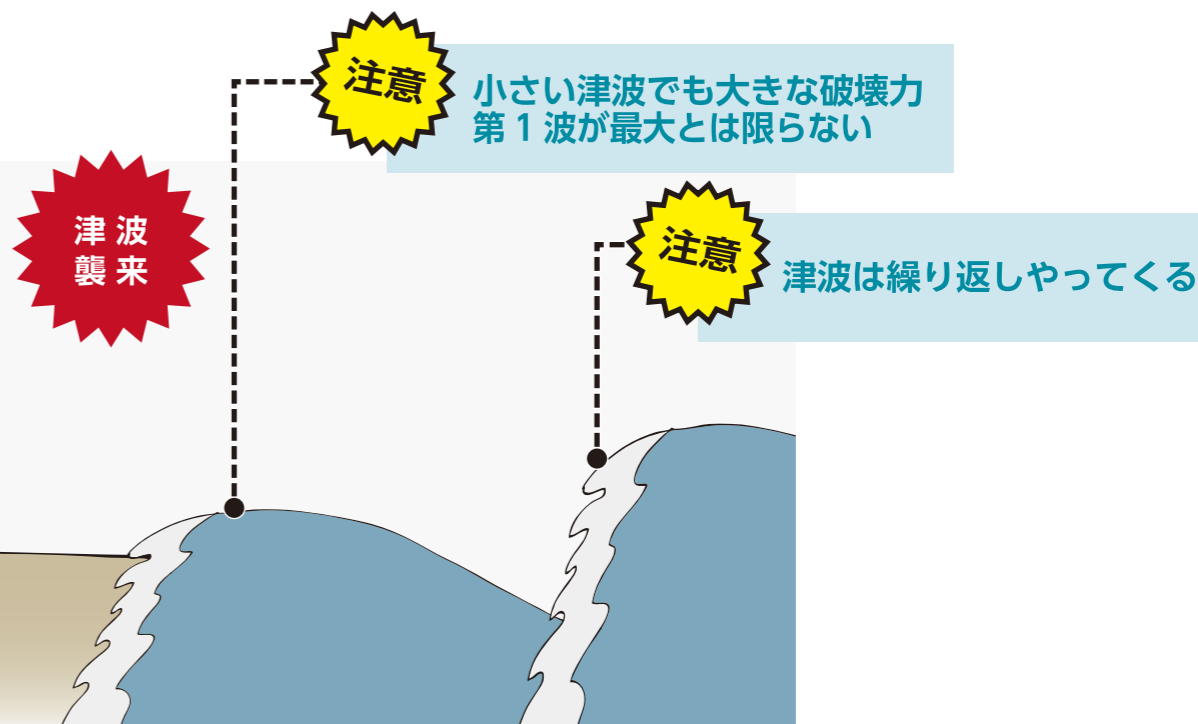
# できるだけ早く、高いところへ

揺れや津波情報をきっかけに直ちに高いところへ避難しましょう。



逃げ遅れたら / その場そのときで命を守る行動を

# 近くにある少しでも高い頑丈な建物、高い場所へ駆け上がる



**！ 揺れに注意**

## 大きな揺れ、ゆっくりとした長い揺れを感じたら海から離れる

津波は、大きな揺れやゆっくりとした長い揺れに伴って発生することが考えられます。海岸や河川の近くにいる場合には、揺れを感じたら情報を待たずに海や川から離れた安全な場所に避難しましょう。

**！ 注意**

揺れを感じたり、津波情報を聞いても、なかなか避難に踏み切れないものです。津波避難の3原則『想定にとられない』、『最善をつくす』、『率先避難者たれ』を実践して、津波から命を守りましょう。

津波避難の3原則の詳細は P.25 で確認しましょう

**地盤の高さを確認する**

## 予定避難所や地域の海拔を日頃から確認

予定避難所の看板や道路標識・照明灯の柱（海拔5m未満の箇所）などに、海拔を表示しています。日頃から確認しておきましょう。

※海拔とは、東京湾平均海面を基準として表した陸地の高さです。



予定避難所の看板例



道路標識等の表示例

各地域の海拔は P.29 ~ P.30 で確認しましょう

**！ 津波情報に注意**

## 津波情報を見聞きしたら、直ちに避難

津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後、約3分で大津波警報、津波警報又は津波注意報が気象庁から発表されます。その後、「予想される津波の高さ」、「津波の到達予想時刻」等の情報が発表されます。

大津波警報・津波警報は、緊急速報メール（エリアメール）などで携帯電話へ自動的に配信されます。（一部対応していない機種もあります。）

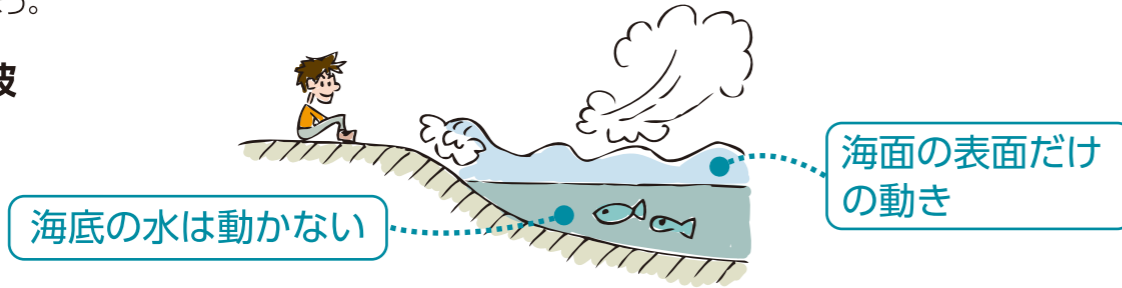
警報の名称	予想される津波の高さ		とるべき行動
	数値での発表（発表基準）	巨大地震の場合の表現	
大津波警報 (特別警報)	10m超※ (10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、直ちに高いところなど、安全な場所へ避難してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。
	10m※ (5m<高さ≤10m)		
	5m※ (3m<高さ≤5m)		
津波警報	3m※ (1m<高さ≤3m)	高い	
津波注意報	1m※ (20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、直ちに海から上がって海岸から離れてください。津波注意報が解除されるまで、海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。

※発表される「津波の高さ」は、津波がない場合の潮位と、津波によって上昇した海面の高さの差をいいます。

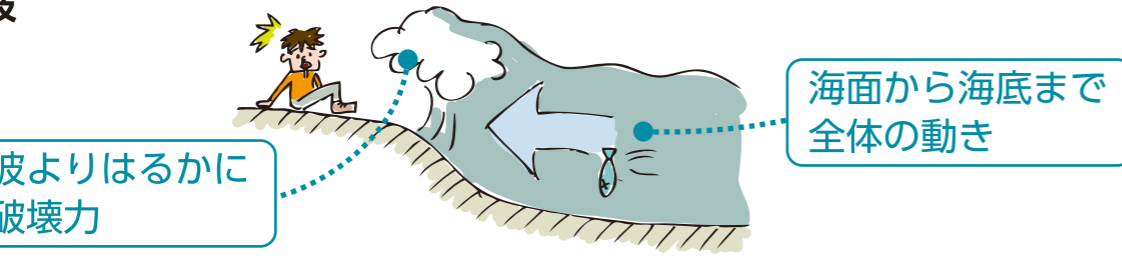
# 津波とは？

津波はその大きさに関わらず、大きな破壊力があります。その特徴を通常の波との違いから理解しておきましょう。

## 通常の波



## 津波



### 津波避難の3原則 ～ 3.11 東日本大震災の教訓～

平成23年の3.11東日本大震災では、2万人近い方が犠牲になり、私たちは“想定”を超える災害がどこにでも発生し得ることを見せつけられました。

そのなかで、岩手県釜石市の子どもたちは避難の3原則を“実践”して、大津波から自分の命だけでなく、地域の人々の命も守りました。

#### 想定にとらわれない

想定はあくまで自然現象を予測するシナリオのひとつであり、ほかにもあらゆる可能性があることを理解すること。

##### 釜石の子どもたちの実話

家が浸水想定区域外にあったため、逃げようとしないうじいちゃんと目が不自由なおばあちゃんに「想定どおりにはならない。お願いだから“逃げよう”」と訴え、家族の命を救った。(小学4年生)

#### 最善を尽くす

どのような状況になるか予測できない災害時にできることは、その状況のなかで最善の対応行動をとること。

##### 釜石の子どもたちの実話

「僕はいいから逃げろ」という義足の友人をおぶって400m先の高台へ逃げた。(小学6年生)

#### 率先避難者たれ

いざというときには、まず自分が率先して避難することで、その姿を見て、ほかの人も避難するようになり、結果的に多くの人を救うことができること。

##### 釜石の子どもたちの実話

部活動中に地震が起き、揺れがおさまった後、「津波が来るぞ、逃げろぞ」と叫び、隣の小学校や周りの住民を巻き込んで避難し、結果的にたくさんの人の命を救った。(釜石東中学校の生徒達)

# 北九州市で想定されている津波

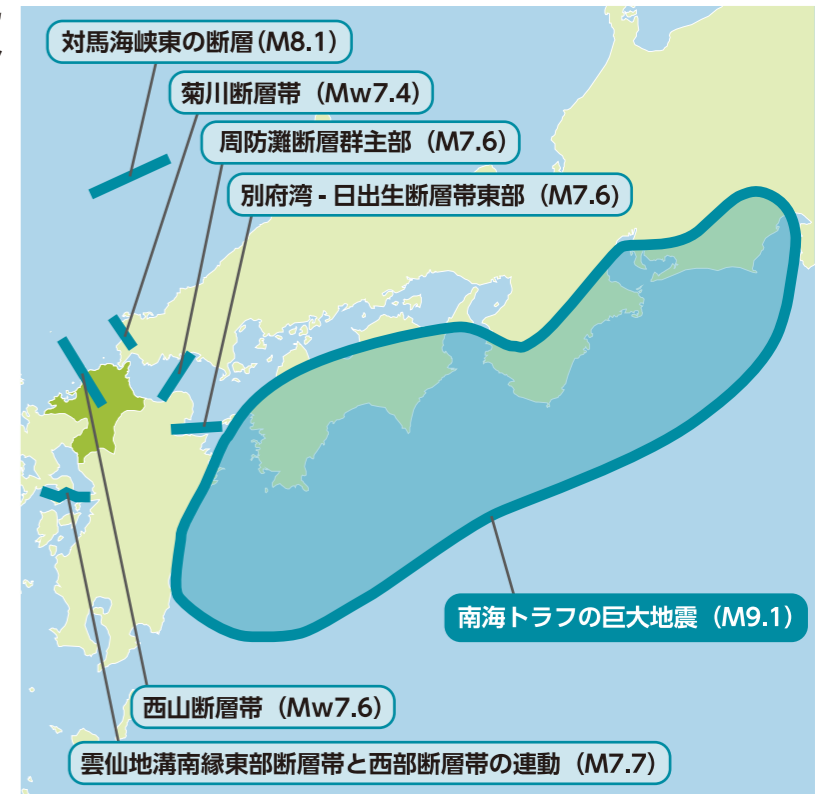
## 海底活断層による津波

平成24年の福岡県の調査※1では、玄界灘、響灘、周防灘、有明海の各沿岸地域に影響を及ぼす可能性のある4つの断層による津波が推計されています。

そのうち、対馬海峡東断層と周防灘断層群主部による地震に伴い、北九州市に津波が到達すると予想されています。

また、国の検討会※2では、西山断層帯や菊川断層帯による地震でも、津波が到達すると想定されています。

※1 津波に関する防災アセスメント調査(福岡県)  
 ※2 日本海における大規模地震に関する調査検討会(国土交通省設置)



## プレート境界周辺で起こる津波

プレート境界周辺で起こる津波については、太平洋沖の南海トラフによる巨大地震が想定されており、国の検討会※3では、M9.1の地震発生に伴い、津波高3～4mの津波が到達すると想定されています。

※3 内閣府による「南海トラフ巨大地震モデル検討会第二次報告」(平成24年8月)

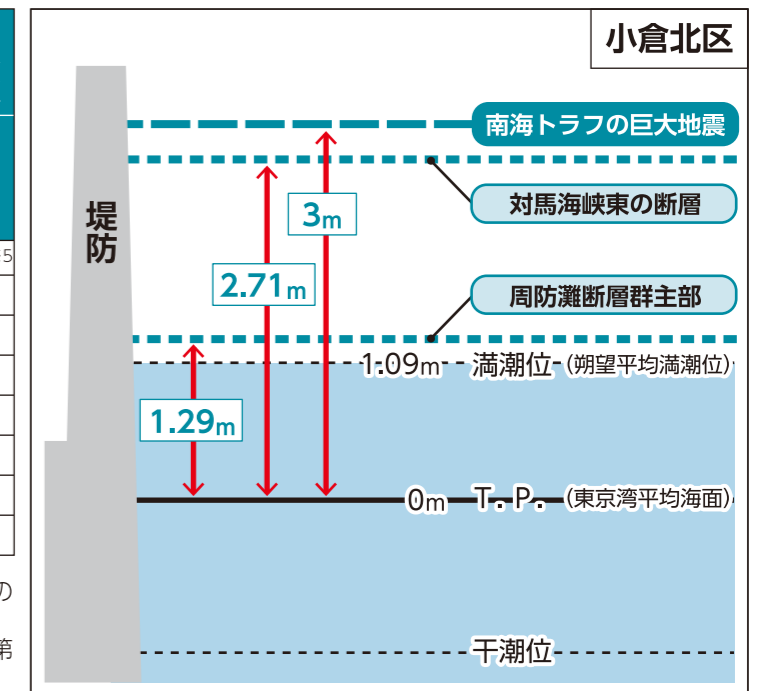
## 想定される津波高

	海底活断層による津波		プレート境界周辺で起こる津波
	対馬海峡東の断層 (M8.1)	周防灘断層群主部 (M7.6)	南海トラフの巨大地震 (M9.1)
	最大津波高※4	最大津波高※4	最大津波高※5
門司区	2.49m	2.66m	4m
小倉北区	2.71m	1.29m	3m
小倉南区	2.09m	2.51m	4m
若松区	3.06m	1.30m	-
八幡東区	1.61m	1.25m	-
八幡西区	1.51m	1.30m	-
戸畑区	1.71m	1.29m	3m

※4 福岡県発表の「津波に関する防災アセスメント調査」の結果に、朔望平均満潮位を加えて算出

※5 内閣府発表の「南海トラフ巨大地震モデル検討会」の第二次報告から引用

## 最大津波高と潮位の関係



平成27年度に、福岡県により、「最大クラスの津波」による浸水想定が公表される予定です。公表された際には、ホームページ等でお知らせします。